

## 平成28年産水稻の収穫量（岩手）

— 水稻の10a当たり収量は540kg（前年産に比べ20kg減少）  
— 収穫量（子実用）は27万1,600t

### 1 作付面積

平成28年産水稻の作付面積（子実用）は5万300haで、前年産に比べ1,100haの減少となった。このうち、主食用作付面積は4万7,100haで、前年産に比べ1,000haの減少となった。

### 2 作柄概況

水稻10a当たり収量は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）が平年に比べ「やや少ない」となり、出穂期以降、おおむね気温・日照時間が平年を上回って経過、9月中旬以降も気温が平年を上回り、登熟（開花、受精から成熟期までの子実の肥大、充実）が「やや良」で、540kgとなった。

### 3 収穫量

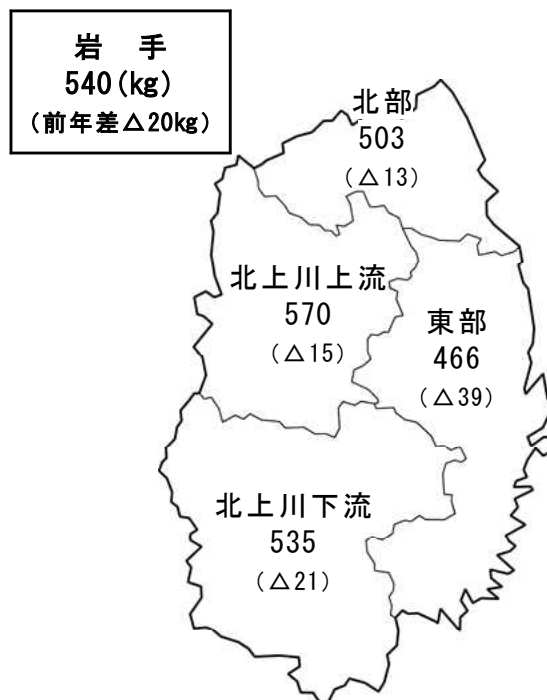
以上の結果、収穫量（子実用）は27万1,600tで、前年産に比べ1万6,200tの減少となった。このうち、主食用の収穫量は25万4,300tで、前年産に比べ1万5,100tの減少となった。

### 4 被害概況

被害量は2万1,900tとなった。

被害種類別にみると、気象被害が2万t（被害総量に占める割合91%）、病害が1,650t（同8%）、虫害が102t（同0%）となった。

作柄表示地帯別10a当たり収量

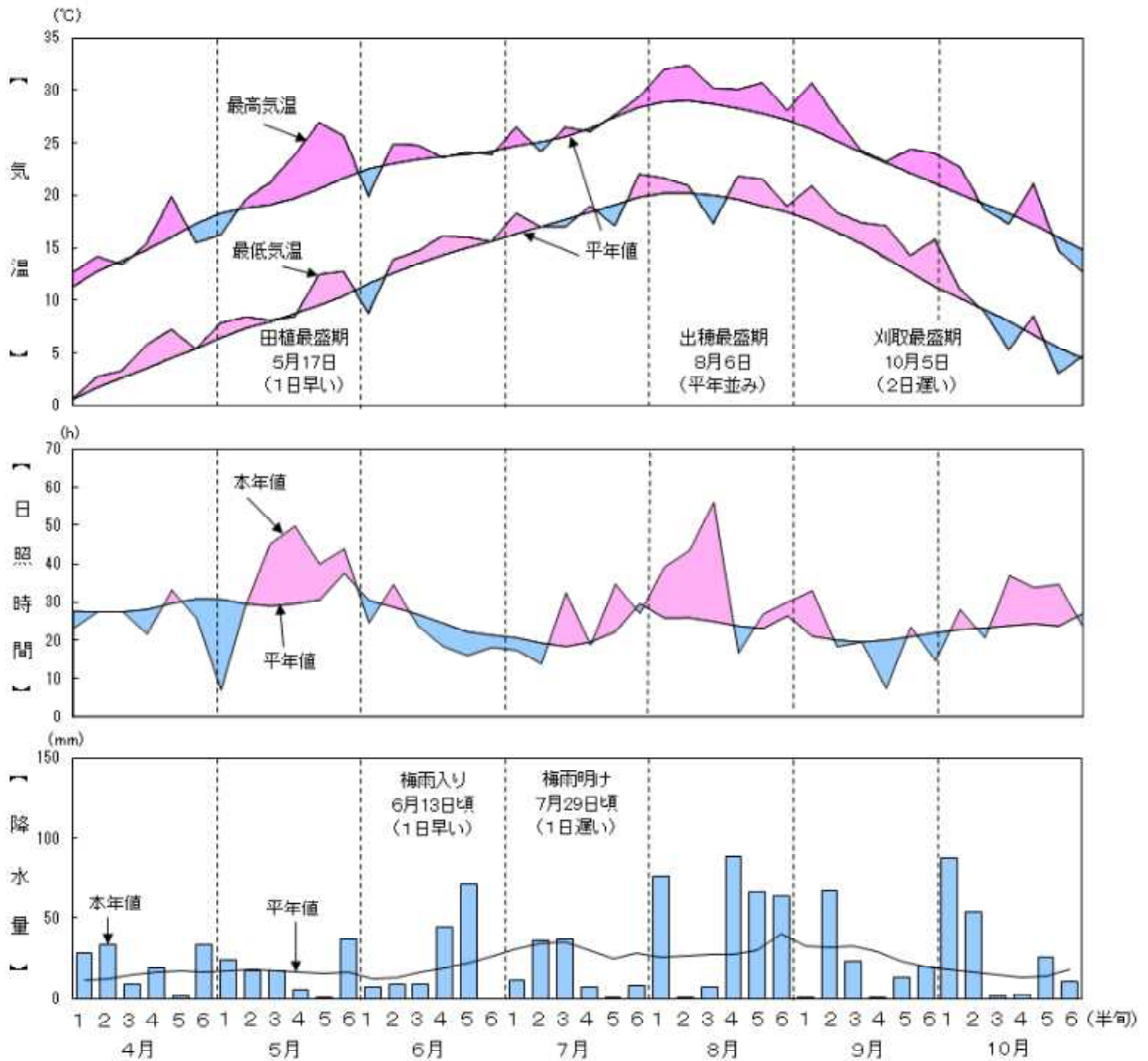


注：（）内の△は、前年産に比べ減少していることを示している。

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積である。
- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

【参 考】

平成28年半旬別気象図(盛岡)



資料：気象庁ホームページより

注：1 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

2 ( ) 内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 岩手県拠点 統計チーム  
 電話：019-654-8885 内線425  
 F A X：019-624-1131